

OKT3(マウス IgG<sub>2a</sub>)モノクローナル抗体処理後、陽(陰)イオン交換樹脂に対する吸着性の変化を測定した結果、陽イオン交換樹脂と白血球を室温で15分間 incubate した後では最初の白血球数(100%)の52.4±6.3%にまで低下した。また白血球の陽イオン交換樹脂に対する吸着性は、セルロース系透析膜中の通過、ニューラミナーゼ、AHLG、抗OKT3モノクローナル抗体処理後に低下した。

## 12. DST後のMLR低下における抗イディオタイプ抗体の検討

(腎センター・移植免疫研究室)

安尾美年子・早坂勇太郎・東間 紘

腎移植において移植片の生着延長効果が認められている donor specific blood transfusion (DST) については多くの実験によりその免疫学的作用機序が推察されている。今回われわれはDST後にMLRが低下した例における抗イディオタイプ抗体の関与について検討した。

方法：リンパ球混合培養反応は通常の方法で行ない、DRパネルリンパ球によるMLRにDST後の患者血清を加えてその影響について検討した。またHLA-DR抗血清にDST後血清を反応させることによりDRパネルリンパ球との反応の抑制についても検討した。

結果：DSTを行なった14例のうちDST前のMLR S.I.の平均値は27.80±20.33、後では10.20±16.61となりDST後に有意な低下がみとめられた。これらのうち特に強い低下を示す例にはドナー特異性がみられるものもあり、これらの血清をDRパネルリンパ球によるMLRおよびDR抗血清に添加したところドナー特異的にDR抗血清の反応を抑制した。

## 13. HBワクチンに対する非応答性と抑制性T細胞

(消化器内科)

鴨川由美子・山内 克巳・中西 敏己・小松 達司・加藤多津子・小幡 裕

我々はHBワクチンに対する免疫学的非応答性の機構を解析する目的で、数回のHBワクチン接種によってもHBs抗体を産生しえない非応答者(NR)のリンパ球の機能を検討した。最終ワクチン接種後、5週目のリンパ球を培養しても、HBs抗体の産生は認めなかった。しかし同じ細胞群からCD8陽性細胞を除去することにより、NRのリンパ球も抗体を産生し得た。この事実より、NRの末梢血中にはHBs抗原特異的な

抑制性T細胞が存在する。そして抑制性T細胞はCD8陽性細胞であり、ワクチン接種後5週目のNRの免疫学的非応答性はこのCD8陽性抑制性T細胞により担われていることが明らかになった。

## 14. 肝癌患者に対する経肝動脈LAK細胞注入療法の臨床的効果

(消化器内科)

小松 達司・山内 克巳・古川 隆二・鴨川由美子・古川みどり・中西 敏己・加藤多津子・小幡 裕

我々は、肝癌患者に対して、自己リンパ球から誘導したLAK細胞とIL-2の経肝動脈的投与を試みた。原発性肝癌7例中6例で、AFPが低下し、3例でCT上、腫瘍の縮小と内部構造の変化を認めた。転移性肝癌4例中1例に腫瘍の内部構造の変化がみられ、また他の2例では腫瘍の増大傾向を抑えることができた。また重篤な副作用はほとんどなく、副作用のために治療を中断した症例は1例のみであった。本療法は副作用が少ないことから全身状態不良の患者にも投与可能と思われるが、その抗腫瘍効果は限定されたものであり、今後更に検討を加える必要があると考えられる。

## 15. IL-2で増殖したヒト末梢血単核細胞の表面マーカーとキラー活性

(第1内科)

斎藤 博・押味 和夫・溝口 秀昭

目的：IL-2で増殖する細胞の性状を検討し、LAKエフェクター細胞の帰属をはっきりさせる目的で、①培養2週目の増殖細胞の表面マーカーと形態、②各亜集団のLAK活性に関して検討した。

方法：10%AB血清を含むRPMI 1640培養液に正常末梢血単核細胞(PBMC)を浮遊させ、IL-2を2500 U/ml添加し、2週培養した。増殖細胞を、FITC標識もしくはPE標識、抗CD3、CD4、CD8、CD5、CD16、NKH-1抗体で同時染色し解析した。さらに各亜集団を分離し、K562、Daudiに対するキラー活性を測定した。

結果：

1) 増殖細胞のマーカー：以下の集団より成った、①CD3<sup>+</sup>4<sup>+</sup>8<sup>-</sup>、②CD3<sup>+</sup>4<sup>-</sup>8<sup>+</sup>、③CD3<sup>+</sup>4<sup>-</sup>8<sup>-</sup>、④CD3<sup>-</sup>16<sup>+</sup>NKH-1<sup>+</sup>、⑤CD3<sup>-</sup>16<sup>-</sup>NKH-1<sup>+</sup>、⑥CD3<sup>-</sup>16<sup>-</sup>NKH-1<sup>-</sup>。

2) キラー活性：測定しえたCD3<sup>+</sup>4<sup>-</sup>8<sup>+</sup>、CD3<sup>+</sup>4<sup>-</sup>8<sup>-</sup>、CD3<sup>+</sup>4<sup>-</sup>8<sup>-</sup>、CD3<sup>-</sup>16<sup>+</sup>NKH-1<sup>+</sup>細胞のいずれもがLAK活性を有していた。